

平成 30 年度第 2 回理事会（拡大理事会）

議事録

日時：平成 30 年 5 月 22 日（火）19：00～20：30

場所：リバーズ和戸 第 2 研修室

出席：（理事）小林伸一、磯野、高村、有泉、井村、名取、菊池、三科、古屋、鈴木、大西、小林司

（監事）谷村、斎藤

（部長）小林泰彦、入倉、塩原、丸茂、上田、平賀、稲持、笠井雄太、瀧口、宮野、清水、市川、小尾、河西、雨宮、遠藤、中込、宇月

（委員長）柴田、三井、笠井斗志夫、高石、宮下

書記：秋山

会員管理情報

慶事 1 件 弔事 0 件 施設数 131

会員数 893 名（施設 832 名 自宅 61 名）休会 70 名

I. 会長挨拶

改選により部長、委員長が変わっている。各部局の協力をお願いしたい。また、この 2 年間は士会の 50 周年を迎える区切りであるとともに、3 年後には三士会の合同学術大会が控えている時期で変わっていく時期ということで「チェンジ・オブ・スタート」で進めていきたい。

II. 審議事項（全 2 題）

1. 平成 30 年度 士会組織、業務分掌、名簿について

○士会組織について

・小尾スポーツ PT 部長：オリ・パラとスポーツ理学療法との予算の棲み分けについて。

→予算はスポーツ PT 部とオリ・パラと分けられているので事業ごとの対応をお願いしたい。

・井村企画局長：配布された組織図の理事には色がついているが、今後そのポストに理事が入ることによってよいか。

→色は理事の人数を分かりやすくするため、正式なものには色をつけない。

・大西広報局長：業務分掌で広報部の内容は会報部になるのではないかと。

→ご指摘のとおり。訂正する

○業務分掌について

業務分掌の追記等があれば事務局まで連絡をお願いしたい。

○名簿について

表には空白があるが、担当の局長が空白を埋め事務局へ提出する。

2. 慶弔規定の変更について

○規定の新旧を提示するので意見があれば事務局にメールにて連絡をお願いしたい。この件に関しては、次回の理事会で決定する。

III. 報告事項（全 3 題）

1. 各種委員会報告

○災害対策委員会（三井委員長）

平成 30 年度は 3 人のメンバーでスタートしているが、この度、新たに山梨赤十字病院の萱沼達弥先生を加え計 4 名体制で運営したい。

理事：メンバーについては、局長、委員長の専決事項で決められるので多くの部員をお願いし、業務の分担をしながら運営してほしい。

○訪問理学療法委員会（柴田委員長）

5 月 18、19 日に全国訪問リハ会議があった。詳細は次回の理事会で報告する。

2. その他

○協会の動きについて（小林会長）

・会館建設について、会館は現在 2 つを構えているが 1 ヶ所する。六本木に建設予定。

・生涯教育について、認定 PT あるいは専門 PT を得て、厚生労働省に認めてもらい診療報酬に反映する予定だったが、日本リハビリテーション医学会と折り合いがつかず、生涯教育の見直しをすることになっている。

○スポーツ PT 部（小尾部長）

6 月末から 7 月上旬 U-14 のテニス大会がある。この大会において、県外から 5 名を受け入れる。また、部員 25 名の内、女性が 2 名であり派遣の場所が減っている。意欲がある女性の先生は紹介してほしい。

○生涯学習部（笠井部長）

他部局の問い合わせが多く寄せられる。今後、問い合わせフォームの検討をしてほしい

→HP 管理担当者と協議して、HP 制作会社にも聞きながら、現状にあった HP にしていきたいと思っている。

3. 事務管理局より（有泉局長）

○会費未納者について

6 月末までに納入がなければ 6 月末で未納退会となる。未納退会者は生涯学習プログラムのポイントはなくなる。

○交流会について

6 月 8 日にベルクラシックで行う予定。

現時点で 31 施設、243 名の申し込みがあった。

★以下は事務管理局からの事務諸連絡

IV. 次回の理事会日程について

日時 平成30年6月26日(火) 19:00～

場所 県士会事務所

連絡 6月22日(金)までに審議事項および資料を
事務管理局(有泉理事)へ提出する。
議題がない場合でも事務管理局へ連絡する。

V. 副会長より

○高村副会長：2年間に渡ってよろしくお願ひします。会長からも「チェンジオブスタート」という言葉をいただきましたので、この言葉をもとに2年間勤めあげていきたいと思ひます。

○磯野副会長：今回、局を増やしたが、コンパクトにしていくと一人に負担が増えてしまう。会員数も増えてきたので、みんなのできる会になればいいと思ひます。

また、今までは、士会員のたためで会が動くことが多かったが、今後は、市民のたためであつたり、県民のたためであつたり活動を通して、理学療法士の価値を高めていきたい。